

スマートフォンの使用と学業成績の関係

1190427 太田 智修

高知工科大学経済・マネジメント学群

Part 1. 概要 (はじめに)

近年、急速にスマートフォン（以下スマホ）が普及し、今日では中学生、小学生までもが自分のスマホを持っている時代である。そしてスマホはその便利さゆえに、今日の我々の生活において欠かせないものになっていると言っても過言ではない。しかし、どこでも手軽に使えてしまうスマホは、その使用方法が時に社会問題になっていることも現状である。センター試験でのスマホによるカンニング行為はまだ記憶に新しいであろう。

このように、スマホは好ましくない場面で使われていることが多く存在する。大学の講義中に使用するということもそのひとつであるだろう。

そこで本研究は、大学生のスマホの使用法の現状（主に講義中での使用）に着目し、それが与える学業成績への影響について述べる。そうすることで現在の大学生のスマホの使用法の見直しや大学の授業の在り方の改善に繋げていく。

Part 2. 背景

現代の教育現場においても、スマホが与える影響によって生じる問題は避けては通れない問題となっている。

一般的に懸念されている問題として、ネット上のいじめ、架空請求や出会い系サイトから生じるトラブル、スマホ依存による学力低下などが挙げられる。本研究ではこれらの問題の内、学力に関連した学業成績について取り扱う。

さて、学校でのスマホの使用について、文部科学省は平成21年1月30日に以下のような通知を出している。（一部抜粋）

“学校における携帯電話の取扱い等について（通知）”

20文科初第1156号 平成21年1月30日

1. 学校における携帯電話の取扱いについて

学校及び教育委員会においては、学校における携帯電話の取扱いに関して、各学校や地域の実態を踏まえた上で、次に示す指針に沿って、基本的な指導方針を定め、児童生徒及び保護者に周知するとともに、児童生徒へ指導を行っていくこ

と。

指導方針の作成及び実施に当たっては、あらかじめ児童生徒や保護者等に対し、指導方針と併せて携帯電話の学校への持込みの問題点について周知を行うなど、学校の取組に対する理解を得つつ、協力体制を構築すること。

(1) 小学校及び中学校

1 携帯電話は、学校における教育活動に直接必要のない物であることから、小・中学校においては、学校への児童生徒の携帯電話の持込みについては、原則禁止とすべきであること。

2 携帯電話を緊急の連絡手段とせざるを得ない場合その他やむを得ない事情も想定されることから、そのような場合には、保護者から学校長に対し、児童生徒による携帯電話の学校への持込みの許可を申請させるなど、例外的に持込みを認めることも考えられること。このような場合には、校内での使用を禁止したり、登校後に学校で一時的に預かり下校時に返却したりするなど、学校での教育活動に支障がないよう配慮すること。

(2) 高等学校

1 携帯電話は、学校における教育活動に直接必要のない物であることから、授業中の生徒による携帯電話の使用を禁止したり、学校内での生徒による携帯電話の使用を一律に禁止したりするなど、学校及び地域の実態を踏まえ、学校での教育活動に支障が生じないよう校内における生徒の携帯電話の使用を制限すべきであること。

2 学校が学校及び地域の実態を踏まえて生徒による携帯電話の学校への持込みを禁止することも考えられること。

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1234695.htm

文部科学省ホームページより引用

この通知では、小中高の携帯電話の使用については記述されているが、大学についての記述は存在しない。しかし、本学において講義中にスマホを使用している学生を見かける頻度は非常に高い。では、なぜ学生たちは講義中にスマホを使用するのか、また実際に使用していることで学業成績が悪くなるなど、学校生活に悪影響を及ぼしていないのか、これらに

ついて調査し、現在の大学生のスマホの使用方法の見直しや授業の在り方について考える。

Part 3. 目的

本研究では、大学生のスマホの使用方法の実態と学生の学業成績を調査し、これらの関係を分析する。そしてそこから得られた結果を元に、これらが互いに与えている影響を考察し、今後のスマホの使用方法の見直しや授業の在り方について提案することを目的としている。

Part 4. 研究方法

本研究は、まず【日常生活および学業成績に対する意識調査】と題してアンケート調査を行う。その質問項目の中に、1日のスマホの使用時間、講義中にスマホを使用するかどうか、などのスマホに関する質問と、GPA など、成績に関する質問を作成した。なお、調査の意図が回答者に知られないために、この他にも多くの日常生活に関する質問項目を用意する。

得られたデータを元に、なぜ学生たちは講義中にスマホを使用するのか、その理由と目的、講義中にスマホを使用する学生と使用しない学生の GPA 平均、などスマホを使用することと成績を様々な観点から関連付けてその関係を調べ比較する。

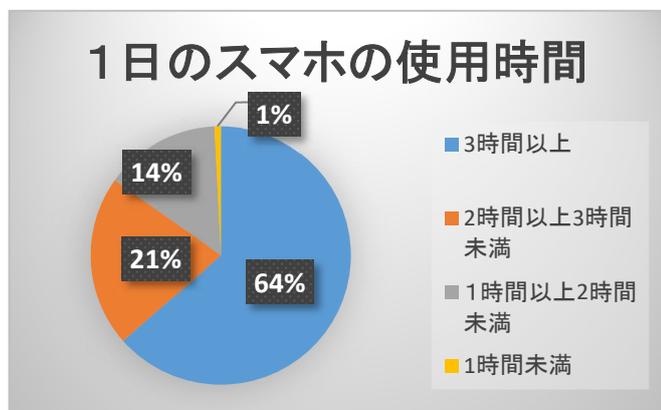
そこから得た結果から、スマホと成績が互いにどのような影響を及ぼしているのかを考察する。

Part 5. 結果

調査対象：スマホを所持する高知工科大学生 127 名

(1年 70名 2年 22名 3年 23名 4年 9名 未回答 3名)

① 1日のスマホの使用時間と通算 GPA 平均



図①

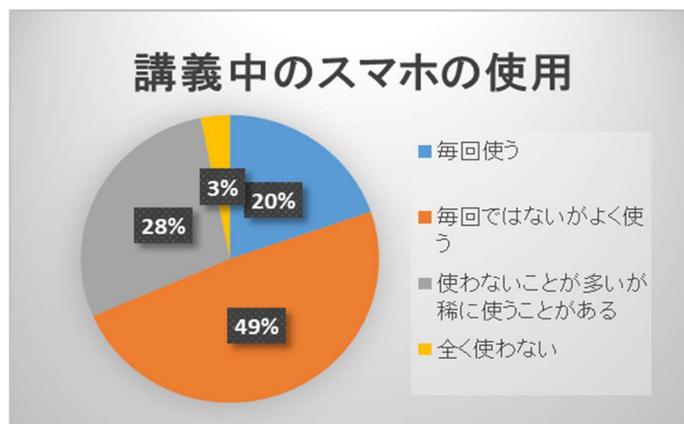
まず、講義中に関わらず1日のスマホの使用時間を聞いたところ、《3時間以上使う》は64%、《2時間以上3時間未

満》は21%、《1時間以上2時間未満》は14%、《1時間未満》はわずか1%という結果になった。

使用時間	通算GPA平均
3時間以上	2.23
2時間以上3時間未満	2.28
1時間以上2時間未満	2.26
1時間未満	2.37

また、1日のスマホの使用時間別に通算 GPA 平均を算出したところ、《3時間以上》は約 2.23、《2時間以上3時間未満》は約 2.28、《1時間以上2時間未満》は約 2.26、《1時間未満》は約 2.37 という結果になり、スマホ3時間以上使用している人たちが最も低くなるという結果が得られた。

② 講義中のスマホの使用と通算 GPA 平均



図②-1

次に、講義中のスマホの使用頻度について、4段階に分けて聞いたところ、《毎回使う》は20%、《毎回ではないがよく使う》は49%、《使わないことが多いが稀に使うことがある》は28%、《全く使わない》は3%という結果が得られた。これより、全体の約7割の学生たちは講義中のスマホの使用頻度が高いということがわかる。

ここから上記の4段階のデータを2段階に圧縮して GPA 等の成績との関連を調べる。《毎回使う》および《毎回ではないがよく使う》を【使う】とし、《使わないことが多いが稀に使うことがある》および《全く使わない》を【使わない】とする。

スマホを【使う】学生と【使わない】学生の通算 GPA 平均を比較すると以下の表のようになった。

使用頻度	通算GPA平均
使う	2.25
使わない	2.23

図②-2

【使う】は約2.25、【使わない】は約2.23となり、わずかではあるが【使う】の方が通算GPA平均は高いという結果が得られた。

③講義中にスマホを使用する目的・理由

②において、スマホを【使う】を使う生徒の方が通算GPA平均が高いことが分かった。そこで講義中にスマホを使用する目的について分類し、割合を算出すると以下ようになった。

講義中のスマホの使用目的	割合
SNS(LINE Twitterなど)	70.1%
ソーシャルゲーム	31%
動画(YouTubeなど)	10%
ネットサーフィン(通販サイトブログ閲覧など)	28.7%
読書(漫画を除く)	2.3%
漫画アプリ	16.1%
音楽	6.9%
勉強(辞書翻訳など含む)	52.9%
その他	8%

図③-1

表より、SNSを使う割合が70.1%と最も高くなった。また、講義中の勉強のために使う割合が52.9%という結果がえられた。これより講義中に全く関係のない目的で“のみ”使用する学生と、勉強など一部関係して使用する学生の割合は、五分五分であることがわかる。そこで前者と後者、勉強でのみスマホを使用する学生の通算GPA平均を比較すると以下ようになった。

使用目的(勉強)	通算GPA平均
勉強に使わない(前者)	2.12
勉強に使うこともある(後者)	2.37
勉強でのみ使う	2.41

図③-2

表より、「勉強に使わない」が2.12、「勉強に使うこともある」が2.37、「勉強でのみ使う」が2.41という結果が得られた。また、学生らが授業中にスマホを使用する理由について聞くと、以下のような回答が得られた。

講義中のスマホの使用理由	割合
講義が退屈でつまらないから	54%
講義の中で生じたわからない言葉などを調べるため	62%
特に注意されないから	29.9%
講義の中で使用許可があるから	8.7%
なんとなく	24.1%
その他	6.9%

図③-4

表より、講義中の疑問を解決するためにスマホを使用する学生が6割いる一方で、講義が退屈でつまらないと感じている学生が半数以上いるということがわかる。

また、講義中にスマホを【使わない】と回答した学生も、使わない理由を以下にまとめた。

講義中にスマホを使用しない理由	割合
特に使用する理由がないから	45%
講義に集中したいから	40%
マナー違反にあたるから	27.5%
講義中のスマホの使用は禁止とされているから	10%

図③-5

このように、使わない理由が「特に使う理由がない」や「講義中に集中したい」といった内発的要因に多く見られ、「禁止されているから」といった外発的要因にはあまりみられなかった。しかし、【使う】と回答した学生の中にも、講義で禁止されていなければ使わないという学生も約11%見られた。

④GPAについての考え方と通算GPA平均

ここまでは、主にスマホの使用と成績の関係について分析してきた。これより、日ごろからGPAについての意識をどの程度もっているかについて分析し、通算GPA平均を比較する。

日頃のGPAに対する意識	割合
一定の数値以上を維持するように意識している	33%
少し意識している	51%
全く意識していない	15%

図④-1

日頃のGPAに対する意識	通算GPA平均
一定の数値以上を維持するように意識している	2.54
少し意識している	2.17
全く意識していない	1.88

図④-2

表より、GPAに関する意識が高いほど、通算GPA平均も高くなるということがわかる。

またこのデータに対して、スマホを【使う】、【使わない】のデータを合わせると以下ようになる。

	日頃のGPAに対する意識	通算GPA平均
【使う】	一定の数値以上を維持するように意識している	2.55
	少し意識している	2.15
	全く意識していない	1.91
【使わない】	日頃のGPAに対する意識	通算GPA平均
	一定の数値以上を維持するように意識している	2.53
	少し意識している	2.21
	全く意識していない	1.84

図④-3

⑤講義中にスマホを使用することについて

最後に、講義中にスマホを使用することに罪悪感や嫌悪感はあるか？という質問を行った。この質問の意図は後程 Part 6 にて記述する。その結果、以下のようになった。

罪悪感や嫌悪感	割合
とても感じる	7.9%
少し感じる	37%
どちらともいえない	22.8%
あまり感じない	26.8%
全く感じない	5.5%

図⑤-1

表から、全体の約45%の学生が、講義中にスマホを使用することは“悪い”と感じており、また、約32%の学生は特別“悪い”とは感じていないということがわかる。

Part 6. 考察

これから Part 5 で得られた結果をもとに、筆者の考察と意見を述べていく。

・5-①について

これは、まず学生たちの大まかなスマホの使用頻度を把握するために行ったものである。しかし、筆者の想定以上にスマホを3時間以上使用する学生が多かったため、通算GPA平均にあまり大きな差はみられなかった。もう少し時間の幅を広げてみるべきだったと考える。だが、3時間以上使用した場合が最も通算GPAの値が低くなっていることから、スマホとGPA値は関係性があると考えられる。また、通算GPAを成績の指標として採用した理由は、アンケート調査の段階で回答者が記入しやすく、また、成績を表している数値のなかで最も正確なものであると考えたからである。

・5-②について

ここでは、本研究の主題でもある講義中のスマホの使用について調査した。アンケートの結果、学生の約7割が講義中にスマホを使用することが多いとわかり、講義中に使用して

いる学生を見かけることが多いという筆者の感覚は正しいことが証明された。

その後、スマホを【使う】、【使わない】と大きく2つに分け、通算GPAの平均を取った。ところが、【使わない】の方が値が低くなり、ここで筆者の予想とは異なる結果が生じた。

・5-③について

②での結果を受けて、スマホを【使う】ことの中にGPAの平均を引き上げている要因があると考え、講義中にスマホを使用する目的と理由に着目した。すると、約半数の学生が“勉強”のために使用しているという興味深いデータが取れた。そこで、勉強にスマホを使うか使わないか、また勉強のみ使うという3つに分けて通算GPA平均を比較すると、図③-2のような結果が得られた。これより、講義に関係の無いスマホの使用を【使う】学生は、講義でスマホを【使わない】学生よりも通算GPA平均が低くなるということがわかる。つまり、ただ講義中にスマホを使用するだけでは成績に影響はないが、その使用目的が講義に無関係ことであれば、当然成績も落ちるというわけである。

これに合わせて、講義中にスマホを使用する理由についても言及すると、図③-3のような結果が得られた。これより、講義の中で生じた疑問を即座に解決できるアイテムとしてスマホは利用されているといえる。一方、講義が退屈でつまらないという声もあり、これには、つまらないからつい手元のスマホで遊んでしまうという意味と、講義を聞かず自分でスマホを使って勉強しても同じという意味も含まれているだろう。

さらに、【使わない】と回答した学生にもその理由を聞いた結果が図③-4である。これより、本来は使いたいがあえて使うことを控えているというよりも、むしろ使いたくないという意味の方が強い傾向がみられた。また、注意されないから使っている、講義の中で禁止されれば使わないといった意見も少数みられ、これはつまり、講義中のスマホの使用について何らかの規定があればそれに従うという解釈ができる。

・5-④について

ここでは、これまでとは違う視点から通算GPA平均を比較した。それは、日頃からの程度GPAを気にしているかという点である。その結果、8割以上の学生は多少なりとも意識しているということがわかった。この結果に対して通算GPA

平均を比較すると、図④-2のような結果になった。これより、日頃から GPA に対する意識が高ければ高いほど、平均も高くなるということがわかる。さらに、②の講義中にスマホを使用するかどうかというデータを合わせたものが、図④-3である。ここで、日頃の GPA に対する意識の欄の【少し意識している】に着目してほしい。これまで一貫してスマホを使っているほうが通算 GPA 平均は高くなっていたが、この欄だけは、使わないほうが高いという結果になっている。また、【GPA を少し意識している】と回答した学生は全体の半数である。これらのことから、講義中にスマホは使用しないが、GPA についても全く意識していないと回答した学生たちが【使わない】全体の GPA 平均値を下げているといえる。

・ 5-⑤について

ここでは講義中にスマホを使用することに罪悪感や嫌悪感はあるか？という質問を行った。この質問の意図は、講義中にスマホを使用することに対してどのような意識を持っているかを問うものである。やはり、一般的に講義中のスマホの使用は好ましいことではない。しかし、学生ら自身がそう感じていなければ改善することは難しい。よってそのことを確かめるためにこのような質問を設定した。その結果、図⑤-1ようになった。つまり、全体の45%の学生たちが、罪悪感を持ちながら講義中にスマホを使用しているということになる。

本来は、この意識についてもう少し詳しく踏み込んだ質問を行いたかったが、本研究の性質上、回答者に研究の意図を知られるわけにはいかなかったので、一つだけの質問となった。

・ 研究全体を通して

本研究全体を通して、講義中にスマホを使用することは必ずしも成績に悪影響があるわけではないということがわかった。使い方さえ誤らなければ、むしろ GPA を一定の水準に保つことさえ可能である。しかし、講義中にスマホを使用することは決して正しいことではない。それは、大半の学生たちは理解している。だが、使用を辞めない学生は多い。このことから学生たちスマホに対する依存度が高いからということがいえるだろう。

しかし、本当に学生側だけの問題なのだろうか。

筆者は、学生の意識はもちろんだが、講義を行っている側にも原因があると考え。それは5-③の結果が示してい

る。5-③で【講義中にスマホを使用する理由】について、《退屈でつまらない》、《わからないから調べる》という回答が半数をこえていることである。これは裏を返せば、退屈でつまらなく、受ける側のレベルに合っていない講義を行っている先生側にも原因があるとはいえないだろうか。例えば、授業中に寝ている生徒がいたとする。このような時、筆者は【寝ている生徒が悪いのではなく、生徒が寝るような授業を行う先生が悪い】と考えている。つまり、今回の結果は授業を行う先生側にも責任の一端があるということである。ただ、この事例はあくまで中高生を対象としたものなので、学生側の自己責任でもある。

すなわち、今のこの現状は学生と先生の双方に改善すべき点があるということである。

Part 7. 提案

Part 6 で述べた問題点の改善案を考えるにあたって、筆者が出す提案は、スマホについての規定を大学が明文化することである。5-③において、禁止されれば使わないと回答した学生が一定数いること、また5-⑤において罪悪感を持ちながら使用している学生が半数近くいることを踏まえると、大学がスマホの使用についての規定を出しても問題ない考える。例えば、講義中にスマホを使用する行為がみられた場合、その講義の単位を出さない、などの規定があれば講義中にスマホを使用する学生は減少するだろう。中高生を対象とするような規定かもしれないが、今の大学生たちには必要なことだと考える。規定がないと守ることが出来ないというのが現状であるからだ。

また、授業改善については、現行されている授業評価アンケートをさらに活用して、より良い講義を行ってもらいたい。

Part 8. 反省と展望

本研究における反省点は、比較するための“成績”のまともな指標が GPA しかなかったことである。そのため偏った見方になってしまったことが否めない。アンケートでは、AA や F の成績を取った講義の科目を記入してもらい、さらにその講義でスマホの使用があったかどうかなどを記入してもらっていたので、そこから講義ごとに分析し、スマホの使用頻度と成績の関係を導く予定だったが、学年、学群が様々であること、学年、学群が同じでも取ってる講義が違うこともあり、分析できるだけの十分なデータを得られなかった。

本研究の今後の展望は、今回スマホと成績の関係について調査したが、この結果をスマホが爆発的に普及する前も時代の学生たちの成績と比較することで、よりスマホが与える成績への影響について深く分析することが出来るだろう。

参考文献

【1】

“学校における携帯電話の取扱い等について（通知）”

20 文科初第 1156 号 平成 21 年 1 月 30 日

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1234695.htm

文部科学省ホームページ

【2】

『スマホが学力を破壊する』（川島隆太著・集英社刊）